

福建伝統劇に見る公案劇の創作

阿部泰記

一 序

近来、伝統劇・地方劇の内容を解説した辞典が続々と刊行されて、時代・地方に跨って上演された劇の内容が次第に明らかになりつつある。『秦腔劇目初考』（陝西人民出版社、一九八四）、『豫劇伝統劇目匯積』（黄河文芸出版社、一九八六）、『川劇詞典』（中国戯劇出版社、一九八七）、『錫劇伝統劇目考略』（上海文芸出版社、一九八九）、曾白融主編『京劇劇目辞典』（中国戯劇出版社、一九八九）、中国戯曲志編輯委員会編『中国戯曲志』（中国ISBN中心出版、一九九〇）、『中国梆子戯劇目大辞典』（山西人民出版社、一九九一）、李修生主編『古本戯曲劇目提要』（文化芸術出版社、一九九七）、王森然遺稿『中国劇目辞典』（河北教育出版社、一九九七）、『中国豫劇大詞典』（中州古籍出版社、一九九八）などがそれぞれである。

本稿で取り上げる『福建戯曲伝統劇目索引』（福建省文化局編印、一九五八―六〇）も労作の一つであるが、残念なことにこの中の諸作品の梗概は、上記の劇目辞典類には収録されていない。第1輯前言によると、発掘した一四、四五三種の内容を毎輯五百から六百種について収

録する計画だったというが、^①『中国戯曲志』福建卷（一九九三）に全5輯と言うところからすると、結局完成しなかったらしい。筆者はその中の1―3輯を金陵図書館において収集した。1輯には閩劇100種、梨園戯16種、莆仙戯384種、高甲戯52種、薙劇39種、2輯には閩劇100種、梨園戯16種、莆仙戯282種、高甲戯21種、南詞20種、閩西木偶戯76種、3輯には閩劇198種、莆仙戯232種、閩西木偶戯66種を収録しており、合計1602種（閩劇398種、梨園戯32種、莆仙戯898種、高甲戯73種、薙劇39種、南詞20種、閩西木偶戯142種）に上る。^②

その中のすべての作品の特徴を概括することは困難であるが、従来の物語に変化を加えて新たなストーリーを創作している作品が少なくない。これは演劇が観客に娯楽を供するものであり、観客の関心に沿って新鮮な話を供与する必要があったからであろう。本稿ではその中の公案劇の創作について紹介する。また「公案」とは事件と裁判を描く小説であるが、^③ 裁判を行う清官の力には限界があり、事件解決のためには、主人公自身、主人公の関係者、鬼神、動物などの協力を必要とすることが多い。よって公案劇の主人公は登場する人間・鬼神・動物すべてであると言っても過言ではなく、そこには民衆の世界観が反

映していることは、「包公案」に関してすでに考察した如くである。⁴
本稿では福建劇についてもそのことを明らかにしてみたい。

二 孝心をテーマとした公案劇

明代に刊行された白話体の公案小説は判例集としての性格を有していたが、同時にストーリーにも工夫が施され、娯楽的な要素も有していた。⁵ 宋代の「公案」小説を始めとする小説や戯曲は全く観衆の娯楽に供する目的で創作されたと言えよう。福建劇においても、伝統劇をそのまま上演しては観客が見てくれず、自ずと内容に変化を加えた作品が求められることとなり、テーマも観客に親しみやすい孝行話、出世話が多く作られた。そして孝行話には勧善懲悪の主旨を示すため、不孝者を登場させて、「公案」劇とした。ちなみに「唐律」では不孝は「十惡」の一に数えられる犯罪であり、「祖父母・父母在、別籍異財、若奉養有缺」（祖父母や父母が生存しながら分家して財産を分配したり、奉養を怠ったりすること）などが挙げられる。「清律」においても不変である。

この種の作品には、莆仙戯「丁蘭」「公治長」「楊香打虎」「姜詩」「曾參」「郭巨埋兒」「方孝孺」「李正」「何徳昌」「羅仔坑」「呂有成」「索引」1輯)、「三孝堂」「董永」「蔡伯喈」「鄒桂林」「高彦真」「鐘錦泰」「陳徳金」「陳古買花会」「張文顯」「鄒文貴」(2輯)、「王祥」「雷良」

(3輯)、梨園戯「姜明道」(1輯)、「姜詩」「朱寿昌」「董永」(2輯)、閩劇「辨荳花」(1輯)、「齊婦含冤」「王祥臥冰」「丁蘭刻木」「琵琶記」「王華買父」(2輯)などがある。

たとえば莆仙戯「丁蘭」(1輯)は、後漢の丁蘭が母の死後木像を刻んで仕えた故事(孫盛「逸士伝」、孝子伝)に取材した作品であるが、丁蘭の悪妻と孝行な兄夫婦を新たに登場させ、丁蘭が悪妻の影響を受けて不孝者となるとし、丁蘭が烏鴉の反哺を見て改心し、母に詫びようとするが誤解した母が転んで死亡したため、丁蘭が木像を彫って朝夕仕えるという新しいストーリーに変換し、さらに悪妻万氏が姑の木像を虐待したため離縁して万家から抗議されるが、孝行な兄が科擧に及第して騒ぎを収め、万氏は虐待を否定したため天罰が下って黒犬に變じ、丁蘭は孝廉を賜るといふ勧善懲悪のストーリーを構成している。⁶ ここで事件の解決者について考えると、丁蘭に孝心の尊さを教えた反哺する烏鴉(動物)であり、不孝者を畜生に貶めた天であり、科擧に及第して清官となった孝行な兄(肉親)であって、直接事件とは関係がない地方官が審判を行うわけではない。

莆仙戯「公治長」(1輯)は、春秋斉の公治長が鳥語をよくして冤罪を免れた伝説(「論語」邢昺疏)に取材した作品であるが、公治長が鳥語を解するに至ったのは母を孝養したから天神が下賜したとし、老婆の一人息子を殺した嫌疑を鳥語を用いて晴らした伝説も、殺された樵が不孝者であったため猛虎に食い殺されたと立証する話と改めている。この作品ではまた、公治長を弓の名手とし、黄雁を遣って紅白蛇精を

招請し、その助勢を得て、烏天豹に変化した烏蛇を破って西番を平定するというストーリーを加えて、孝子の出世話としている。⁷⁾

莆仙戯『楊香打虎』(1輯)は、三国呉の孟宗が冬に笋を求めて母に食べさせた故事(『呉志』孫皓伝注)と、孝女楊香が猛虎を打って父を救う故事(劉敬叔『異苑』)とを組み合わせ、さらに不孝な嫁杜月香を登場させて、通りかかった孟宗が月香を食おうとする猛虎を退けるというストーリーを創作する。この作品では不孝者を裁くのは猛虎を遣わした天であり、また不孝者を説諭して改心させる孝子である。

莆仙戯『三孝堂』(2輯)でも、盗賊を登場させて、病母が欲しがる豚の肝臓を手に入れるために貧乏な夫婦が質入れしようとする木綿の裙を途中で騙し取ったため、孫が祖母のために肉体を提供するという事件を演じ、祖母が県令の裁判に納得せず、悪人が雷に遭って死に、孫の亡霊が祖母に真相を説明して始めて話を終結させている。この作品でも、事件を解決するには県令だけでは足りず、天罰と鬼(肉親)の証言を助けとしている。

莆仙戯『郭巨埋兒』(1輯)は、王裒が文帝に誅殺された父儀の墓で号泣して柏が枯れた故事(『晋書』卷八十八)や、王裒が雷を恐れた母の墓を守った故事(同前)と、郭巨が老母を養うために子を埋めようとした故事(『孝子伝』)とを組み合わせ、さらに郭巨の悪辣な兄夫婦を登場させて、夫婦が天が郭巨に贈った黄金を強奪しようとするが、孝子王裒が仲裁してやめさせるというストーリーを構築している。

莆仙戯『方孝孺』(1輯)も、同名京劇とは異なる故事で、明の方孝

孺が仕官を捨てて母を孝養し、説諭して劉琢玉の不孝な妻や孔成章の非道な母舅を改心させたため、後に任官した劉・孔の建言によって帝が方孝孺を大夫に任命する話とする。

莆仙戯『田如蘭』(2輯)は、田真兄弟三人が紫荆樹(すほう)が枯れたため財産分配をやめた故事(梁吳均『続齊諧記』)を敷衍して、次男田真の妻由氏と弟由行を不孝者として登場させ、田広兄弟がみな科挙に及第し、田真・田慶も紫荆花神の加護により番邦と戦って凱旋し、由行が長男の財宝を盗んだことを神が暗示したため、兄弟は分家をやめて、由氏に枯らされた紫荆樹が復活するという、神が孝心を勧め、孝子が出世して不孝者が陰を潜める物語としている。

莆仙戯『王祥』(3輯)では、王祥を継母に讒言する貪欲な乳母を登場させ、継母が乳母の讒言を信じて、王祥に奈樹の見張りを命じて虎の餌食にしようとするが、孝心によって奈樹は風雨に遭っても実が落ちず、虎狼も王祥に近づかないという孝感劇を創作する。本劇では、王祥の他、王祥を陰で助ける異母弟王覽、王祥を海賊から守る家僕李徳、王祥の妻の自害を阻止する土地神、継母に取り憑いて反省を迫る王祥の実母の靈魂、王祥に臥冰を示唆して双鯉を贈る観音、王祥を孝廉に推挙する御史呂虔が登場させ、乳母は因果応報で雷に遭って死ぬと結ぶ。⁸⁾

梨園戯『姜詩』(2輯)は、姜詩とその妻龐氏の孝行話(『後漢書』姜詩妻伝)の中に悪媒婆が登場させ、姑に讒言して嫁三娘を離縁させるが、三娘が孝養を続けたため、姑も後悔して悪媒婆を退けるとい

孝感ストーリーを構築し、姜詩は泰州太守陳泰の上奏によって孝廉を賜り、惠州太守に任命されるという孝子出身譚を形成している。⁹⁾

梨園戯『朱寿昌』(2輯)は『夢溪筆談』『東軒筆録』『吹劍録』等に記載する宋の朱寿昌が妾であった母の再婚先を尋ねて探し当てた故事に基づき、¹⁰⁾ 朱寿昌の実母が正妻に追放されるという事件を創作して、官印を妻舅に預け、観音の意思によって虎蛇の住む深山に入って母を求めるといふ試練物語を演じる。¹¹⁾ 官職にある者の孝に対する自覚を促す作品として傑作である。

閩劇『齊婦含冤』(2輯)は、『漢書』『于定国伝』、『搜神記』『東海孝婦』の故事に取材した作品であるが、悪辣な庶母を新たに登場させて、表弟と姦通して婢に嫡母の暗殺を命じるが、婢が誤って庶母の娘を刺し殺したため、連累を恐れた嫡母が嫁寶氏とともに逃亡し、生活に困窮したため自害するという新たなストーリーを創作し、庶母がさらに別の男と姦通して表弟を殺し、寶氏を姑殺害で誣告したため、官が誤って寶氏を処刑し、東海は三年間日照りが続くが、寶氏の夫が官職を得て帰郷したため、恐れた姦夫が庶母を殺して自殺し、誤審を犯した官は罷免されるとする。この劇でも、庶母・表弟・姦夫には自業自得の神判が下り、天が異常天候を発生させて冤罪を暗示し、誤審して威信を欠く官に代わって夫(親族)が官となって審判を下しており、清官の行政能力を賞賛する話とはなっていない。

閩劇『王祥臥冰』(2輯)は、『王祥臥冰』故事(『晋書』卷三十三)の中に、県令の妻が家僕と姦通して夫を殺害する事件を挿入し、県令

の妹金蘭梅が追い出されて王祥の童養媳となるとして王祥の話と結合させ、継母が王祥を追放して蘭梅に実子への再嫁を迫るが、王祥が科挙に及第して県令の事件を審理し、蘭梅を救出するという、孝子が清官となって妻の事件を解決するという話を新たに構築している。¹²⁾

三 立身出世をテーマとした公案劇

観衆の関心はまた、科挙及第者を出して家庭の繁栄を図り、出世によって良き伴侶を得る話にも集中する。ここに書生の立身出世をテーマとした公案劇が多く創作されることになる。¹³⁾ 中でも女性の親が貧書生との婚約を破棄するが、婚約者が貧書生を支援し、科挙に及第させて団円するという話が圧倒的に歓迎された。ちなみに婚約破棄は犯罪であり、『唐律』には「諸許嫁女已報婚書及有私約(約謂、先知夫身老幼・疾残・養庶之類)而輒悔者、杖六十。雖無許婚之書、但受聘財、亦是。若更許他人者、杖一百。已成者、徒一年半。」(婚約した女性がすでに婚約書を交わしており、また夫の老幼・疾病・身体障害・養子・庶子などを事前に内諾しながら解約した者は、六十回の杖刑に処す。婚約書が無くても結納を受け取っておれば、同様である。さらに別人と婚約していれば、百回の杖刑。結婚していれば、一年半の徒刑に処す。)と規定し、『明律』『清律』もほぼこれを襲う。¹⁴⁾

福建劇には、莆仙戯『阿猴公子』『吳清風』『一文錢』『女巡按』『王

敵』『毛世英』『呂元英』『呂蒙正』『江金芳』『李彦明』『張良清』『陳玉麟』『陳瑞鳳』『陳国臣』『蘇憲章』『趙応昌』『欧天華』『彭文煥』『彭文猷』『彭俊英』(1輯)『王禹瓊』『岳霖』『王朝元』『王朝鳳』『馮瑞君』『田心麒』『呂錫元』『伍雲龍』『江秀成』『汪朝宝』『俞錦章』『徐長弓』『秦中玉』『康安神』(2輯)『徐国珍』『魯信元』『顏春敏』『馬鴻禧』『玉俊麟』『朱其昌』『孫錦祥』『李廷芳』『鄒天俊』『岳鍾奇』『茅占鰲』『柳春心』『真珠塔』『夏述昭』(3輯)、梨園戲『呂蒙正』『岳霖』(2輯)、閩劇『灯花縁』『張公義』(1輯)『彩樓記』(呂蒙正)『番官山』(2輯)、高甲戲『血手印』『周古代』(1輯)、薙劇『当活宝』(蘇丁玉当子)『担水記』(胞嫂報仇)』(1輯)、閩西提綫木偶戲『漆匠嫁女』(2輯)『白扇記』『売水記』『珍珠塔』(3輯)などがある。

たとえば莆仙戲『江金芳』(1輯)は、父母を亡くして家が零落した江金芳の物語に、交趾国王黒同能と戦って敗れて身を隠す周雲華の物語を組み合わせて演じており、江金芳が知府王応雄から指腹婚約を解消された後科挙を受験して探花に及第すること、周の妻仿英が男装して身を隠し、道台の養子となって王の娘と仮の夫婦となること、周が神助を得て交趾国を破って凱旋することを並行して演じ、事情を知る周が江の訴えを審理し、仿英を召喚して夫妻が再会し、王の娘は江と結婚するという、巧妙な団円劇としている。

閩劇『番官山』(2輯)は、書生張良興が家僕から江に突き落とされ指腹婚約者柴玉英を奪われそうになる事件を演じており、岳父柴肇は張を強盗として官に突き出すが、番官山の女山賊黒月英が前後して

張と玉英を救出し、悪家僕も捕らえて、張の身代わりとして投獄された盟友毛龍を刑場から救って婿に迎えて、自らも幸福を得る。張は脱獄後に科挙に及第し、兵権を掌握して番官山を招安し、家僕を斬首して、玉英と婚約を挙げ、柴肇は自害する。この作品では、事件解決に関わる主要人物は官ではなく、女山賊と書生の友人であり、主人公と彼らが同時に幸福を得るという巧妙な団円劇を展開させている。

莆仙戲『呂錫元』(2輯)は、醜貌の書生呂錫元が指腹婚約していた娘に嫌われて仕方なく離縁する話と、老書生に嫁いだ女性が巡撫の弟と姦通し、共謀して夫を毒殺して放火する事件を並列して演じ、醜貌のため地位の低い知県に任命された呂が事件を調査して、死者の口から黄水を検出し、羊を用いて服毒焼死であることを実証して帝から褒賞を受け、帰郷して娘と婚約を挙げる団円劇としている。この劇は、實力を示して出世し、醜貌という自己の弱点を克服して幸福を得る話にうまく公案を取り入れている。

このように清官も裁判のためだけに出現せず、出世話の中で描写されるのが喜ばれた。それは包拯においても然りである。明成化年間に説唱詞話『包待制出身伝』が創作されたように、後述の如く福建劇でも、莆仙戲『包文拯』(1輯)において、包拯が張宣と同道して科挙を受験して定遠県令に任官し、張宣の妻と検屍吏の妻が犯した「双釘案」を裁いて開封府尹に昇格するという出世話を創作している。

四 書生の出世と背信をテーマとする作品

民に模範を示すべき知識人の不孝不義を問責するテーマも公案劇の主流を占めている。前掲『唐律』戸婚律「許嫁女報婚書」には、「男家自悔者不坐。不追娉財。」（男性方が婚約解消を言い出した場合は、罪としないが、結納は取り戻せない。）といい、男性方の婚約破棄については不問に付せられたが、『明律』では「男家悔者、罪亦如之。」（男性方が婚約解消すれば、罪は同様である。）といい、女性方と同様有罪とされた。また戸婚律「有妻更娶」には、「諸有妻更娶妻者、徒一年。女家減一等。若欺妄而娶者、徒一年半。女家不坐。各離之。」（妻が有りながらまた妻を娶った者は、一年の徒刑に処す。女性方は罪一等を減じる。妻が無いと騙して娶った者は、一年半の徒刑。女性方は罪としないが、離婚を命じる。）といい、重婚は禁じられていた。『清律』も同様である。戯曲では、『琵琶記』『荊釵記』を始め多くの作品がこのテーマを演じている。

莆仙戯『王魁与桂英』（1輯）は、王魁が科挙に及第した後、妓女桂英との婚約を破棄する物語であり、宋の羅燁『新編醉翁談録』に「王魁負心桂英死報」として記述され、宋元戯文『王魁』、元雜劇『海神廟王魁負桂英』が上演された。明王玉峰『焚香記』に至って団円劇に改竄して丞相韓琦の女婿となったと欺いたため、桂英は自縊して海神

に訴えるが、冥界で王魁の証言を聴いて無辜と知り、二人は還魂して結ばれる。¹⁶ 本劇も金姓の人物を登場させるが、内容は背信物語に逆転させ、妓女桂英が王魁に離縁された後自害して少女に変化し、財産を使い果たして王魁を訪ねていく金蕩に同道して、途中で妓女と嫖客の争いに出くわすと、妓女に通判に訴えるよう示唆するが、王魁が嫖客に味方して妓女を処罰したため、金蕩と同道した少女が忽然と姿を消して桂英の亡霊が出現し、王魁は七竅から血を流して死ぬと結んでいる。類似の事件の裁判を通じて被害者の亡霊が加害者に復讐をするという奇話を演じており、復讐譚と公案を融合した作品と言える。

梨園戯『百里奚』（1輯）は、『孟子』『万章篇』、『史記』『秦本紀』に基づく故事で、明張伯起『屨屨記』、清蔡元放『東周列国志』では、虞人百里奚が秦の五羖大夫となり、訪ねてきた妻が「屨屨歌」を唱って団円する話とし、京劇『屨屨歌』や莆仙戯『百里奚』（3輯）、閩西提綫木偶戯『百里奚認妻』（2輯）もほぼそのまま演じるが、本劇では、百里奚が虞国の宰相の婿となって上京した妻子を認めないため、妻子は明祝大王廟に避難して息子東哥が大王から兵書を授かり、百里が銅甲（部下）を遣って妻子を殺そうとするが銅甲は妻子を放免し、後に東哥は秦兵を退けた功績により元帥に任命され、一品夫人に封じられた母が百里を誅殺しようとするのを東哥が阻止して、百里も妻子を認める。¹⁷ 明万曆刊の小説『百家公案』二十六回「秦氏還魂配世美」を演じた『劍美案』『秦香蓮』とストーリーが酷似するため、「包公案」を意識して創作されたと思われるが、妻子が官となって夫（父）を裁

くとして、骨肉の情を重視するところに特色がある。

莆仙戯『高彦真』(2輯)は、明刊『高彦真葵花記』を素材とし、梁英が状元に及第した高彦真に婿になるよう強要して高彦真の家信を握りつぶした上、上京した高の妻李氏を毒殺するが、李氏は西嶽大帝によって復活し、武芸を教授されて山賊盧太保を平定し、元帥都夫人を授けられて、「先斬後奏」の特権によって梁英を投獄し、高彦真の不孝不義を責めて和解し団円する。本劇は、被害者自身が官となって加害者に復讐する痛快さを持つ公案劇の一つである。

五 京劇を移植した作品

上述の如く、福建劇では、孝心や立身出世など親しみやすいテーマの作品を始め、バラエティに富んだ作品を創作しているが、その中にはまた、京劇を移植した作品も少なくない。曾白融主編『京劇劇目辞典』(中国戯劇出版社、一九八九)に掲載された作品と比較してみると、次のような作品が京劇と題名や内容を同じくしている。

閩劇『双摇会』『四進士』『玉蜻蜓』『行楽図』『張文祥刺馬』『采茶奇案』『珍珠塔』(1輯)『一棒雪』『九更天(馬義救主)』『上京台(無双女)』『芙蓉屏(薛尚栄)』『剖腹驗花』『烏鴉林(楊七降生)』『荊花楽』『董蘭貞』『碧塵珠』『箱屍案』『三門街』三本『王華買父』二本(2輯)『大補缸』『乾坤帶』『端午門』『飛龍伝』『双珠鳳』『牛郎織女(天河配)』

『殺子報』『陳世美』『武松英史』『宦海潮』『孟麗君』三本(3輯)、莆仙戯『劉玉卿』『慶頂珠』『鄭恩』『金水橋』『海瑞逐鬼』『崔子弑齊君』『桃花女』『焦贊解途』『刁顏楼』『十五両』『大鬧淮安城』『王十朋』『五鼠精』『田玉昌』『胡守用』(1輯)『王景龍(玉堂春)』『高繼祖(白羅衫)』『蕭何』(2輯)『打面缸』『宮娥恩仇記』『真珠衫』(3輯)、閩西提綫木偶戯『夜審潘洪』『宮門掛帶』(2輯)『下河南』『龍鳳旗』『紅書劍』『忠孝全』『売水記』『藥茶計』『二度梅』十八本(3輯)、高甲戯『伐子都』『換包記(老少換妻)』『九龍杯』『孝婦羹』(1輯)、薊劇『仙門登元』『痴心女子』(1輯)、梨園戯『殺狗記』(2輯)

そしてこれらの作品も、やはり京劇の物語をそのまま演じるのではなく、登場人物名やストーリーを変えるなど工夫を加えて新鮮味を出して観衆に供している。

たとえば閩劇『芙蓉屏(薛尚栄)』(2輯)は、明李禎『剪灯余話』『芙蓉屏記』、『今古奇観』『崔俊臣巧会芙蓉屏』、明江楫『芙蓉記』伝奇を素材としており、京劇『芙蓉屏』では、崔俊臣が妻王氏を同伴して赴任する途中、船頭に江中に落とされ、高御史が王氏の題詩のある芙蓉屏を購入したことから夫婦が再会し、船頭は捕らえられるというストーリーであるが、本劇では、崔の事件を審判する官にも物語を持たせ、崔俊臣の事件の前に、後に巡按となる薛尚栄が婚約者朱芙蓉の不貞を疑って離縁したため、芙蓉が婢と逃亡する途中で、婢が悪船頭を殺して芙蓉屏を持ち去るといふ話を置き、二人が奇しくも同じ船頭の被害に遭って芙蓉屏を奪われた崔俊臣の妻と出会い、薛が状元に及第

して巡按となり、崔の訴えを聴いて事件を裁き、二組の夫妻が再会するという巧妙な団円劇としており、出世話と公案を組み合わせている。

閩劇『剖腹驗花』（2輯）は、京劇『貞女血』では、表兄江不良が偽のラブレターを楊家に投げ込んで表妹李秀貞の結婚を邪魔し、秀貞の貞操を証す滴血検査も媒酌婆を買収して誤らせるが、最後に兄李天祥が科挙に及第して帰還し、妹の冤罪を雪ぐ。本劇では、兄が登場せず、表妹杏娘が自ら命を賭して「剖腹驗花」を行って貞節を証し、後に表兄の婚約者に「借尸還魂」して復活し、自分を陥れた表兄を訴えるという復讐話としており、描写の重点は官よりも被害者にある。

閩劇『荊花楽』（2輯）は、梁貞均『統齊諧記』に載せる故事で、莆仙戯『田如蘭』（2輯）については既に述べたが、本劇では、二弟三弟が財産分配を主張して父が憤死し、二弟が長男の家に放火するという悲惨な事件に発展させて、三弟が悪辣な母舅を毒殺したことから三弟の妻が後悔して自首したため、一家は団円して荊花も生き返るといふ新しいストーリーを再編している。この作品では、悪妻の改心によって事件が終結している。

閩劇『飛龍伝』（3輯）は、小説『飛龍全伝』（乾隆三十三年刊）四十六回を素材とするが、本劇では、奸相歐陽臣訪と子鼎を登場させ、歐陽が子のために趙弘恭の娘を娶ろうとするが拒絶され、さらに鄭恩が子を刺殺したため、高行周の討伐に趙匡胤を推薦して復讐を図るが、高の自刎によって陰謀が壊滅するという勧善懲悪のストーリーに改める。なお小説・京劇とも趙匡胤を推薦するのは、柴榮（世宗）とする。

閩劇『双珠鳳』（3輯）は、小説『双珠鳳』を素材とする故事で、京劇『双珠鳳』（『送花楼会』）では、文必正が下僕として霍天官の家に入り、娘と結婚の約束をする恋愛物語であるが、本劇では、新たに文必定の強欲な妹を登場させ、文の留守中に母が病死したため、妹平章が財産独占をたくらんで帰宅した文を投獄するが、文は獄吏楊虎の子の犠牲によって逃れて科挙に及第し、河南巡撫に就任して事件を解決するという公案劇を盛り込んでいる。

莆仙戯『高継祖（白羅衫）』（2輯）は、『警世通言』「蘇知異羅衫再合」を素材としているが、本劇では、父蘇雲は船頭に襲われるが死なず、後に高継祖と父子の再会を果たすとし、また継祖が進士に及第して母鄭氏の訴えを聴いて事件を裁くとせず、蘇雲の弟蘇雨を登場させて、蘇雨が継祖と同年の進士として事件を調査する団円劇に改めている。

莆仙戯『蕭何』（2輯）は、『漢書』本伝にはない故事で、京劇『秋生造律』では、蕭何が墓を暴いて蘭秋生の造った法律を盗んで高祖に献上したため処刑される話、京劇『三斬功臣』では、蕭何が邱戴明の墓から盗もうとして処刑される話であるが、本劇では、まず継母が誤って我が子を殺して前妻の娘を誣告する事件と、母を殺した父を子が殺害する事件を具体的に演じて、その後、蕭何が寝食を忘れて法律を刑敲したことから不孝を犯したため自害し、棺中に収められた法律を刑部尚書が二子に発掘させて、蕭何の法律に「見棺者斬」「開棺者斬」と記されていたため、二子を斬首して民に信を示した後に二事件を裁く

として、深刻な公案劇に改編している。

六 「包公案」の変容

福建劇は新鮮なストーリーを観客に提供することを特色としており、従って公案の典型である「包公案」も内容を変化させている。「包公案」には次の作品がある。

閩劇『三嬌美人図』『火烧鳳凰台』『包公判梧桐』（1輯）『三鼎甲』（2輯）『下登州』『天雷報』『包公打鑾駕』『包公斬李強』『玉連環』『金龜記』『烏盆記』『辞朝』『大狼山』『状元出家』『陳世美』（3輯）、梨園戲『劉大本』『陳州賑濟』（1輯）、莆仙戲『金文賢』『文子薇』『五鼠精』『包文拯1』『包文拯2』『包文拯3』『司馬都』『呂文龍』『孫步雲』『胡守用』（1輯）『包公審八件衣』『張文華』『玉天清』『鄒桂林』『何文経』（2輯）『包公捉風』『顔春敏』『包文拯出世』『周文龍』『郭華』『崔文祥』（3輯）、高甲戲『雨傘記』（1輯）『飛龍入宋』『牡丹案』『斬呼必頭』『搖錢樹』『試掌中血（三下河南）』『賊知県』（2輯）、薙劇『八褶衣』（1輯）、閩西木偶戲『啞子分家』『曹仁修仙』（2輯）『双包記』『包公斬国舅』『鬧東京』（3輯）

閩劇『包公判梧桐』（1輯）は、尹雪貞が結婚初夜に夫查怡の詩才を試したことから查の学友鄭正に犯されて自害する事件（『龍図公案』『借衣』）の前に、雪貞の弟良英が父秉桂の留守中に財産強奪を図る伯

父尹秉蘭の後妻によって誘拐されたため母田氏が悲観して自害する事件を演じ、包拯が雪貞の冤魂の訴えを聴いて、芋蔓式に二つの事件を解決する奇談とする。

閩劇『状元出家』（3輯）は、状元に及第した楊正魁が妻子がありながら宰相陳玉雲の入り婿になるという『高文举珍珠記』型の話であるが、楊が入り婿になったのは冤罪で流刑に処せられた蘭溪知県水春仁を救うためであったという美談に改めた点が新しく、楊は妻帯者であることが発覚して出家し、上京した妻も監禁されるが、子升官が母を尋ねる途中で出家した父と出会い、包拯に訴えて親子が団円する話となっている。

莆仙戲『金文賢』（1輯）は、神通力を持つ包拯像をもとに、包拯が福建を巡察して、土地神が善人に幸福をもたらし悪人に災禍を下す事案を調査する話を創作し、包拯を福建の観客に親しみやすい官に変えている。

莆仙戲『文子薇』（1輯）は、包拯が文曲星の転生で雷電から狐狸精を救うという説書『龍図公案』の話を改編して創作しており、状元文子薇が文曲星の転生で、狐仙・嫦娥との姻縁で結ばれるが、包拯が状元を捜索して狐仙・嫦娥は去り、文は張済行の娘を娶るとし、包拯の出世話を別人の話に転換し、代わりに包拯に神通力を發揮して事件を解決する役割を与えている。

莆仙戲『包文拯1』（1輯）は、包拯の神通力伝説と忠臣伝説をもとに創作した作品であり、包拯が開封府尹になったのは奸相曹礼満が包

拯を妖怪に殺させるために推挙したことによるとし、包拯は赴任途中で古鏡・宝剣を用いて門鬼・田螺精を退治し、彼らを従えて開封府の龍虎二妖を鎮圧し、陰陽帯を手に入れて龍圖閣大学士に任命される。

莆仙戯『包文拯2』（1輯）は、『包待制出身伝』と『双釘案』を並行して演じ、包拯が張宣・高捷と同年の進士に及第する場面を設定して、張宣の悪妻が義弟張義を殺害して金亀を奪った『双釘案』を解決して開封府尹に出世し、高捷の妹を娶る団円劇として三者を結合し、また後に検屍吏の妻となる柳氏が夫胡賞信を殺害する場面を挿入して、胡の靈魂が金亀に変化し、張義に釣られて張宣の任地である雲南定辺県へ行き、柳氏の過去の犯行を包拯に暴露させるといふ奇談を創作している。

莆仙戯『包文拯3』（1輯）は、包拯が収賄罪を犯した甥を処刑する話として『劊侄』劇があるが、本劇では、甥包華は閩海県令で姦通事件を審理するが、姦夫の賄賂を受け取って審判を曲げるという場面を具体的に演じた後、包拯を登場させて甥を処刑させるといふ勧善懲悪劇としている。

莆仙戯『司馬都』（1輯）は、『劊趙王』劇であり、包拯が孫文僅に殺された司馬都を復活させ、趙王に殺された司馬受の子金保が科挙に及第し、包拯が媒酌して司馬受の妻を救った趙王の婢玉梅を娶せるといふ団円劇に変えている。

莆仙戯『孫歩雲』（1輯）は、『劊曹国舅』劇であり、本劇では、包拯が定遠侯曹栄の弟曹雄に絞殺された秀才孫歩雲を救助して蘇生させ、

監禁された孫の正妻が妾の犠牲によって逃走し、何仙姑の力を借りて包拯に訴えて夫婦が再会する団円劇とする。

莆仙戯『玉天清』（2輯）は、救済した無頼が恩人玉天清の留守中に妾と姦通してその母・妻を殺害して逃走し、玉家の家宝を朝廷に献上して「進宝状元」を賜り、郡主の婿となるといふ極悪非道の案件をテーマとしており、妾は棄てられたため包拯に訴えて側室に迎えられるが、妾の婢と玉に救われた盗賊の訴えにより、結局は無頼とともに処刑されるという、ストーリーに曲折を持たせた勧善懲悪劇としている。

莆仙戯『何文経』（2輯）は、趙宣王の子が何文書の婚約者と姦通して何を毒殺した事件を演じ、何の婚約者を妃に贈られた真宗が事件を受理しないため、包拯が閩羅に訴えて真宗に警告し、事件の調査を命じられた刑部蕭永忠が検屍によって肝臓と肺の変色を見て毒殺と審判して、包拯が姦通した男女を処刑するという、冥判と会審を組み合わせた新型の「包公案」を創作している。

莆仙戯『包文拯出世』（3輯）は、包拯が次兄夫婦から迫害を受けるという説書『龍図公案』の話を演じるが、定遠県令を罷免された包拯が宰相王延齡の推挙によって開封府尹に昇進する話を吏部李文業が仁宗の命を承けて賢臣を捜す話に改め、包拯が狐狸精の仲介で李文業の娘の病気を治し、李の推薦で定遠県令に任命されるという出世話としている。

莆仙戯『郭華』（3輯）は、劉義慶『幽明録』『買粉兒』に由来する

故事で、元雜劇『王月英元夜留鞋記』では、羅帕を呑み込んで死んだ郭華が王月英の愛情によって蘇生する情感故事を演じており、包拯の活躍は描かれないが、本劇では、包拯が陰陽鏡で郭華の靈魂を捜して見つからず、如来から甘露水を授かって郭華を復活させるという神通力を發揮するストーリーに変えている。

莆仙戲『崔文祥』（3輯）は、張四姐が天界に去った後に崔に嫁ぐ女性として楊家將の蘭拳・蘭花を登場させ、張四姐が包拯の身体を破壊して還魂を阻止する場面を設けて、包拯が甥包貴を後継とするという伝説に沿ったストーリーを巧みに創出している。

高甲戲『賊知県』（2輯）は、包拯の甥包冕に扮した家人武吉祥が悪事を犯した事件（『龍図耳録』四十七回）をもとに創作した作品で、烏陣県の盜賊楊吉鳳が包敏を襲って官印を奪い、包敏の名を騙って赴任するが、師爺（幕僚）黄通の妻と前妻の娘と姦通し、政治は黄通に牛耳られるという場面を具体的に演じて、偽官吏の悪事を克明に描写した後、包拯を登場させて悪人を処刑させるという勧善懲悪の内容に改めている。

閩西木偶戲『包公斬国舅』（3輯）は、国舅曹義が袁文振を毒殺してその妻韓月素を強奪するという『曹国舅公案伝』故事であるが、本劇では、これに曹国舅が民家強奪を図って放火したため包拯が上奏して曹を外官に左遷する事件を挿入し、外戚の悪事を強調した話としている。

七 「包公案」から生まれた公案

次の作品は、「包公案」を別の官の公案に改めた作品である。

閩劇『碧塵珠』（2輯）は、同名京劇では、国舅曹真が伍迎春を殺して碧塵珠を強奪し、伍の妻王桂英に婚姻を迫るが、桂英は兄王子仁に救われて、包拯が曹真を裁く話とするが、本劇では、時代を唐代に転換し、奸相曹伯昂が碧塵珠を隠して節度使謝景春の罪を責めて誅殺し、伯昂の子が謝の娘天香に婚姻を迫るが、婚約者高克忠が登場して都城を包囲し、相国柳弘が事件を裁くと結んで、忠臣対奸臣故事らしく改めている。

閩劇『王華買父』二本（2輯）は、京劇では、状元楊吉峰が抗言する娘を乞食王華に嫁がせるが、王華が父八賢王を買って扶養する話と、包拯が兵部劉大晋の八賢王暗殺の陰謀を挫く話を演じており、二件の話は無関係であるが、本劇では、楊の長女が劉兵部の子に嫁ぎ、夫の歡心を買うため妹も夫に嫁がせようとするというストーリーを加えて、次女が姉の提案を拒絶して父の怒りを買う、乞食王華に嫁がされるとし、八賢王の暗殺も長女の夫が企てたこととして、王華の盟友で劉兵部の部下田虎が八賢王を救出すると結び、二件の話をうまく関連させて、善悪の対立という一貫したテーマを設定している。

閩劇『看鰲山』（2輯）は、明成化説唱詞話『趙皇親孫文儀伝』の物語であり、小説『龍図公案』『黄葉葉』や『劉趙王』劇として伝承され

ており、好色な趙王が鰲山を見物する織造匠師官受の妻劉都賽を強奪することを演じるが、本劇では、土豪曹景騰が鰲山を見物する商人司馬受の妻楊小霞を姦淫しようとする事件に変え、『索引』附注にも指摘するように、事件を審判する官は包拯ではなく、同治年間に福建巡撫を務めた王凱泰として、「包公案」を地方故事に変えている。

閩劇『王望恩』(2輯)は、『雲中落繡鞋』故事であり、もと白蟒精を退治して王女を救った石玉の功績を表兄王恩が横取りして殺害した事件で、包拯が石玉を復活させて王女と結婚させ、王恩を極刑に処すという話であるが、本劇では、王望恩を善人、李背義を悪人として、李が兄弟を殺して洪水に遭って王に救われるが、王を騙して、妖怪の生贖の童男としたり、蛇精の洞窟に置き去りにしたり、龍王の宝物を奪って海中に落したりと悪行を重ねるさまを描写し、結局その悪行が実を結ばずに斬首され、王が童女、龍女、王女を妻とするという因果応報劇を演じている。

閩劇『福保看相』(2輯)は、小説『警世通言』「三現身包龍圖斷冤」の、押司孫文が妻と養子によって投身自殺を装って殺害される事件を包拯が字謎を解き死体を発見して解決する話をもとに創作しており、本劇では、包拯が登場させず、王福保の妻が王洪と姦通して福保を扼殺し、王洪が福保の衣服を着て投身自殺を装うが、福保の冤魂が床下に黄金があると母舅に告げたことから死体が発見されて事件が発覚すると、事件解決の方式を変えている。

閩劇『白玉環(玉環記)』(2輯)は、『龍圖公案』「九頭案」に基づ

く。白熊が宝物「遊仙枕」を奪うため表弟劉天祿を殺す事件を、李克明が借金を取り立てに出て岳父尤熊に殺される事件に変え、鄭屠が逃亡した妓女宦娘を殺す別の事件も、李家の兄弟の嫁の仲が悪く、李の妻尤淑英の婢錦兒が元の主人任桂良に首飾りを贈ったため、李の嫂に咎められて妓女に売られそうになるが、淑英が救出して家に帰す途中、鄭屠に殺されてその首が任桂良に渡り、任が尤熊の家を租借して李の死体が発見され尤熊の犯行が露見するという李家の事件に変え、二事件を巧妙に連結させている。

高甲戲『血手印』(1輯)は、宋元戲文『林招得』以来の「血手印」故事であるが、本劇では、明代の物語とし、宰相王春華が林友安の子孝堂に娘金鸞との婚約破棄を迫ったことから、娘が孝堂を助成しようとして婢を使者とするが、婢が博徒に殺害されて孝堂が冤罪を被る事件が発生したため、巡按劉志榮が婢の冤魂の訴えを聴き、偵察をして事件を解決するという地方故事に改作している。

莆仙戲『王朝元』(2輯)は、『龍圖公案』「鎖匙」を素材としており、鄒士龍が王問臣との指腹婚約を解消することから発生した盗賊の侍女殺害事件を演じるが、王問臣が病死したためその子が貧窮したとせず、王が遼国の捕虜となり、誤って殉死したと報告されたと改め、従って官に殺人犯を暗示するのも王の亡霊とはせず城隍神だと改め、子王朝元は応試して進士に及第し、遼国と対戦して太子を捕らえたため、遼王が王問臣を送還して父子は凱旋し、鄒も罪を詫びて両家は和解するという団円劇を創作している。この劇では、事件を解決するのは城隍

神であり、官はただその暗示に従うだけで大きな役割を果たすわけではない。

莆仙戯『陶測明』（2輯）は、『双釘案』故事にヒントを得た完全犯罪事件を演じており、陶測明の表弟の妻が提督と姦通して表弟の脳天に金簪を打ち込んで殺害し、表弟の冤魂が彭沢県令陶測明に訴えて陶が審理するが、死体から傷痕が発見されず、陶に死刑が宣告され、御史となった同年進士が再審して傷痕を発見し、始めて事件が解決するという波乱のあるストーリーを構築して、三進士の友情物語としている。

莆仙戯『鐘金声』（2輯）もまた『双釘案』にヒントを得た作品で、鐘金声が月老の仲介で妓女周鳳音と結婚する話と、鐘の恩人周継富の後妻が別の男と姦通して周の脳天に鉄釘を打ち込んで殺害する話を並行して演じ、鐘が科擧に及第して巡撫に就任し、周の冤魂の訴えを聴いて事件を解決するとして連結し、出世譚と公案を組み合わせている。

莆仙戯『田応麒』（2輯）は、『龍凶公案』『借衣』の変型である。

「借衣」は、秀才沈猷の表兄王倍が沈猷に扮装して沈の婚約者阿嬌を姦淫する事件を包拯が偵察して解決する話であるが、本劇でも、秀才田応麒が戸部尚書の長女との婚約を解消されるが、夫人の計らいで娘と密会するため、相国の子鄧森に衣冠を借りに行くと、鄧森が田に扮装して長女を姦淫するという「借衣」と類似するストーリーを演じるが、相国が不肖の子を斬首する「大義滅親」の話に改め、次女を登場させて田に嫁がせ、団円劇としている。

莆仙戯『縛冊』（3輯）は、長男の妻が流産したことを隠して次男の妻の出産した男児を自分の子だと主張する案件を漢の郡太守黄覇が審判した故事（後漢応劭『風俗通』）に始まり、元雜劇『包待制智勘灰欄記』に至って、馬均卿の正妻が趙令史と姦通して馬を毒殺し、妾張海棠が馬を殺して正妻の子を強奪したと誣告する事案を包拯が裁く話を素材とする。本劇は、兄弟の妻の争いをテーマとする話に改めて、丁世豪の嫂許氏が書物を腹に縛って懐妊を装い丁の子を奪う事案とし、結末に丁の兄弟が妻たちに和解を勧め、県令が一子に両家を後継させて仲裁し、殺気立った公案劇を団円劇に改変している。

莆仙戯『陸炳章』（3輯）は、包公公案『八件衣』では、捕吏白水江が馬洪の家に強盗に入って家僕を殺害し、従妹から贈られた八着の衣服に銀と鞋が包まれているとも知らず質に入れた張玉成を強盗として捕らえ、馬洪に偽証を強要して張を有罪とするが、従妹が出頭して無罪を主張し、乞食が城隍の審判を包拯に報じて事件が解決する話であり、本劇のストーリーもこれに酷似するが、県に出頭した娘が法廷で死なずに逆に偽証する凌を刺し殺し、盜賊が太山廟で太山王が捕吏劉禁を審判する現場を見て上告を決心するが、県令も夢を見て事件を再審し劉禁を斬首するとして、三者に重要な役割を持たせた公案劇に改編している。

八 結 尾

以上、福建における公案劇創作について考察したところをまとめると、演劇は観衆を楽しませるため、新鮮なストーリーを創作して演じられた。その場合、観衆の集中する孝行、出世・結婚など身近な話題をテーマとし、勧善懲悪という通俗文芸の思想に沿って、故事

や京劇、「包公案」など親しみのある既存のストーリーを發展させる方法が用いられた。それゆえ孝子故事に不孝者或いは悪人を登場させて孝子が彼らを感じずる話としたり、出世・結婚故事に犯罪事件を結びつけて科挙に及第した書生が事件を審判する話としたりして公案故事が誕生した。包拯を官とする劇も従来のストーリーに手が加えられ、「包公案」を地方故事に改編した作品も生まれた。また二件の話を並行して上演し最後に巧妙に結合させることがしばしば行われたが、これは南戲の歴史的構造とも関係がある。(註)そしてこのような既存故事の改編によって作品構成を緊密にした前作に勝るとも劣らぬ力作が生まれたことは評価に値する。なおこうした孝心を称揚し、出世を謳歌する公案劇の創作は、家庭の繁栄を祈願する民衆の伝統的な吉祥觀念を反映していると言えよう。(註)

このように「公案」故事は単独で上演されることは少なく、観衆の願望に沿って孝心・出世結婚故事の中に挿入されて上演されたのである。また公案劇では必ずしも事件を審判する清官が中心人物として事

件を解決するとは限らず、事件の当事者と、その周囲に存在して彼女(彼女)を援助する人間・鬼神・動植物が事件の解決に多大に関わるものが多く、登場人物すべてが主人公であると言っても過言ではない。このような公案劇の構造には、民衆の社会意識、宗教觀念が強く反映していることが分かる。

注

(1) 前言には、「截止目前統計、全省劇種四十個、已發掘的劇目一四、四三本。我們計劃將它們的索引分輯出版、每輯包括五〇〇、六〇〇個劇本、約二十萬字。」(目下の統計では、全省の劇種は四十、すでに發掘した劇名は一万四千四百五十三。我々はその索引を輯を分けて出版し、每輯五百から六百の作品、約二十萬字を収録する計画である。)という。

(2) 閩劇は明代以来の平講戲(弋陽腔系)・儒林戲(崑曲・高腔系)・嘮嘮戲を融合して一九一七年頃形成した劇種で千五百種余の伝統劇目を持つ。莆仙戲は弋陽諸腔を吸収した宋代以来の南戲系統の興化戲を一九五二年に改称した劇種で、五千余の劇目を持つ。梨園戲は大梨園(下南・上路)・小梨園の三流派があり、下南は明清劇よりも古い体裁を持つ粗野な劇種、上路は宋元南戲劇目を傳承する古い劇種である。高甲戲は明末清初に廟会の宋江戲に始まる劇種で、梨園戲・崑曲・京劇の劇目や形式を吸収して六百余の劇目を持つ。薅劇は台湾歌仔戲が廈門に上陸して伝播し、改良戲に

発展して建国後改称した劇種で、四百余の伝統劇目を持つ。南詞は清代曲芸が発展した劇種で、五六十年の劇目を持つ。以上「中国戯曲劇種大辞典」(上海辞書出版社、一九九五)参照。なお閩西木偶戯については項目を立てていない。「中国戯曲志」福建卷(中国ISBN中心出版、一九九三)も同様である。

(3) 黄岩柏『中国公案小説史』(遼寧人民出版社、一九九二)第一章「緒論」には、「公案小説是中国古代小説的一种題材分類、它是並列描写或側重描写案、断案的小説。」(公案小説は中国古代小説のテーマ分類の一であり、事件と裁判を並列或いはどちらかを偏重して描写する小説である。)と概念規定する。

(4) 阿部泰記『「包公案」を構成する世界—神と人と動物』(「アジアの歴史と文化」第3号、一九九九)参照。

(5) 科挙制度が普及した唐代において、行政官となるためには、「判」の試験が科され、貞元十六年(八〇〇)、進士に及第した白居易が、貞元十八年に百条の判の模擬問題を作成し、それに対する模範解答を試作して拔萃科の受験の準備をしたことは周知のごとくである。また判例集としては、五代後晋の和凝・和蒙撰『疑獄集』四卷や、それを増補した宋鄭克撰『折獄龜鑑』二十卷、二書を選集して分かりやすく二例ずつ対比した宋桂万榮編『棠陰比事』一卷が出現し、明代には、錦水竹林浪叟輯『蕭曹遺筆』四卷(一五九五)・清波逸叟序刊『折獄明珠』四卷(一六〇二)・琴堂臥龍子彙編『蕭曹致君術』六卷・『法家須知』三卷(一六三三)・湖海山人

清虚子編『合刻名公案断法林灼見』四卷が出版され、白話体の『廉明公案』(一五九八)・『詳刑公案』(?)・『諸司公案』(?)・『律条公案』(?)・『明鏡公案』(?)・『新民公案』(一六〇五)・『詳情公案』(?)は小説であると同時に法例集としての性格も具えていた。孫楷第『日本東京所見中国通俗小説書目』、庄司格一『中国公案小説の研究』(研文出版、一九八八)、阿部泰記『明代公案小説の編纂』(日本中国学会報三十九集、一九八七)参照。

(6) なお『逸士伝』では、木像が涙を流すのは万氏に虐待されてではなく、丁蘭が木像を打った隣人を殺して捕らえられたからである。また『孝子伝』では、丁蘭の妻が誤って火で木像の顔を焼くとし、虐待ではないがここから悪妻物語が発生したと思われる。

(7) なお秦腔『公治長断八岔』は、公治長が烏鴉に羊肉の内臓を与えなかつたため、烏鴉に誣告されて投獄されるが、気が済んだ烏鴉が公治長に八案件のヒントを与えて解決させるといふ公案劇であり、孝心をテーマとしない。王森然遺稿『中国劇目辞典』(河北教育出版社、一九九七)参照。

(8) なお呂虔は王祥を別駕として民事を委ねた三国魏の徐州刺史であり、王覽が王祥の異母弟で王祥を母の虐待から守ったことは史実である(『晋書』王覽伝)。また銭南揚『宋元戯文輯佚』(上海古典文学出版社、一九五六)に収録する『王祥臥冰』戯文でも、王祥が実母の画像を描いて継母に打擲される場面や、乳母が継母を唆して王祥を海州へ絹販売に遣り、後を追った王覽と家僕李徳が

山賊を感動させて捕らえられた王祥を救出する場面を演じており、本劇は宋元以来のストーリーを伝承する作品であることが判明する。なお福建劇の中に古南戯の姿を検証する論考集として、福建省戯曲研究所等編『南戯論集』（中国戯劇出版社、一九八八）がある。

(9) ちなみに明陳龍齋『姜詩躍鯉記』伝奇には悪媒婆は登場しない。前掲王森然遺稿『中国劇目辞典』参照。

(10) 『中国戯曲志』福建卷（中国のCZ中心出版、一九九三）参照。

(11) 朱寿昌は宋天長県の人で、熙寧の初め知広徳軍を辞職して金剛経を血写して父の妾であった母を捜し出し、復職した孝子。『宋史』卷四五六。

(12) 明姚旅『露書』によれば、閩子弟が上演する『姜詩』『王祥』『荊釵記』は琉球人が特に好んだと言われる。福建省戯曲研究所編『福建戯史録』（福建人民出版社、一九八三）『福建戯曲伝入琉球』参照。

(13) 孟犁野『中国公案芸術発展史』（警官教育出版社、一九九六）第十章『三言』中明代話本体公案小説的新風貌』には、明以前の公案小説では官と民は混淆することが無かったが、『玉堂春落難逢夫』『蘇知鼎羅衫再合』『張廷秀逃生救父』の作品に至って、案件の当事者が審判官と合一する現象が発生した。そこには市民階層の出世願望が反映していると指摘する。（97頁）

(14) 清薛允升編『唐明律合編』、清沈書城編『清律例彙纂』参照。

(15) 李修生主編『古本戯曲劇目提要』（文化芸術出版社、一九九七）参照。

(16) 清邱煒菱『五百石洞天揮塵』（光緒二十五年）卷二『閩南戯班演出』『百里奚』『蔡伯喈』には、「閩郷戯出、有『百里奚不認妻』『蔡伯喈不孝父母』之目、観者代抱不平、幾于目眦尽烈」（福建で、『百里奚不認妻』『蔡伯喈不孝父母』が上演されると、観衆は被害者に同情して、皆が裂けるほど激怒する。）と記しており、人気を博した作品である。福建省戯曲研究所編『福建戯史録』（福建人民出版社、一九八三）参照。

(17) 青木正児『支那近世戯曲史』（弘文堂、一九三〇）は『琵琶記』を例に挙げて「戯文の体例」を説明し、「相對する両家、例えば男家と女家、旅先と留守宅等の状態を交互に演出するを通例」とし、それは「看者をして飽かしめざるため」と指摘する。

(18) 阿部泰記『宝物故事から見た『包公案』の作品構造』（中国文学論集二十八号、一九九九）参照。

（山口大学人文学部教授）